

荒川化学グループは、  
その歴史を植物由来の天然樹脂ロジンとともに歩んできました。  
環境問題や環境対応への取り組みは、  
創業当時から現在も変わらない事業活動の一環と捉えています。

## 環境基本方針

荒川化学グループでは地球環境と調和する事業活動をおこなうため、「環境保安基本方針」をもとに「環境保安行動指針」を定め、環境に優しく、生物多様性の確保に寄与する事業活動を進めています。

### 環境保安基本方針

製品の開発から廃棄に至るまでの環境、安全、健康を確保し、  
地球環境と調和する事業活動を行う

【2013年4月1日 取締役社長 谷奥 勝三】

### 環境保安行動指針

1. 環境および保安に関する法令を遵守し、社員一人ひとりがその重要性を認識する。
2. 事業活動において、環境の保全、生物多様性の確保、および社員・地域住民の安全・健康に配慮し、安全操業に努める。
3. 事業活動に伴う環境への負荷の低減、省資源・省エネルギーを推進する。
4. 事業活動における環境・保安事故および労働災害の防止のため事故事例を解析し、情報を収集して適切な防止対策を実施する。
5. 製品の開発および新プロセスの開発は、環境・安全・健康の確保に配慮して行う。
6. 製品、原材料等取扱い物質の環境・安全・健康への影響に配慮し、安全性の調査・研究に努める。
7. 製品の安全な取扱いを図るために顧客へ必要な情報を提供する。
8. 製品や事業活動に関する行政当局や地域住民の関心に留意し、より一層の信頼が得られるようコミュニケーションに努める。
9. 海外への事業展開において、当該国の法令を遵守するとともに、環境保全、生物多様性の確保、安全・健康の確保に努める。

【2011年4月1日改訂 環境保安委員会】

## 環境保安基本方針の具体化

2020年を達成目途とした4項目の長期目標のもと、第3次中期経営計画における環境目標を策定、それをもとに2013年度の環境目標を設定して、環境への貢献、推進のための取り組みをスタートしました。

### 【長期目標】

- ① 環境に配慮したものづくりと製品開発により社会に貢献していく。
- ② 温暖化ガス排出削減を進め、地球温暖化防止に貢献していく。
- ③ 再資源化を促進して、ゼロエミッションを達成する。
- ④ 再生可能資源の利用、緑地の地域性確保などを促進し、生物多様性の確保に寄与する。

### 【第3次中期経営計画および2013年度の環境目標】

第3次中計・環境目標	2013年度環境目標
EMS全社体制構築	EMS全社体制の整備(運用準備)
省エネルギーと温暖化ガス排出量削減推進(原単位で毎年1%削減)	2012年度比1%削減
廃棄物のゼロエミッション化推進(最終埋立率0.1%以下)	最終埋立率1%以下
再生可能資源利用促進/生物多様性の確保の取り組み推進	ロジンの安定供給確保(松林の保全)の施策推進、工場緑地の保全、社内啓発